

ダイズの放射性セシウム吸収に 播種時期は影響しない

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質吸収抑制技術の開発

研究課題名 営農再開のための放射性物質対策技術の開発

担当者 平山孝、小野里正信

I 新技術の解説

1 要旨

5月下旬～7月中旬に播種したダイズにおいて、子実の放射性セシウム吸収に差がないことを明らかにした。

- (1) カリ無施用およびカリ増施の2条件を設け、5月下旬、6月中旬、6月下旬、7月中旬にダイズ(品種:タチナガハ)を播種した。カリ無施用区では播種時期が遅くなるほど開花期の茎葉のセシウム137濃度が高くなる傾向が見られたが、子実の濃度にはカリ無施用・増施区とも差が見られなかった(図1)。

2 期待される効果

- (1) ダイズの晩播においても、標播と同等の放射性セシウム吸収対策が可能であることを明らかにした。

3 活用上の留意点

- (1) 試験は農業総合センターの水田転換畑で実施した。

Ⅱ 具体的データ等

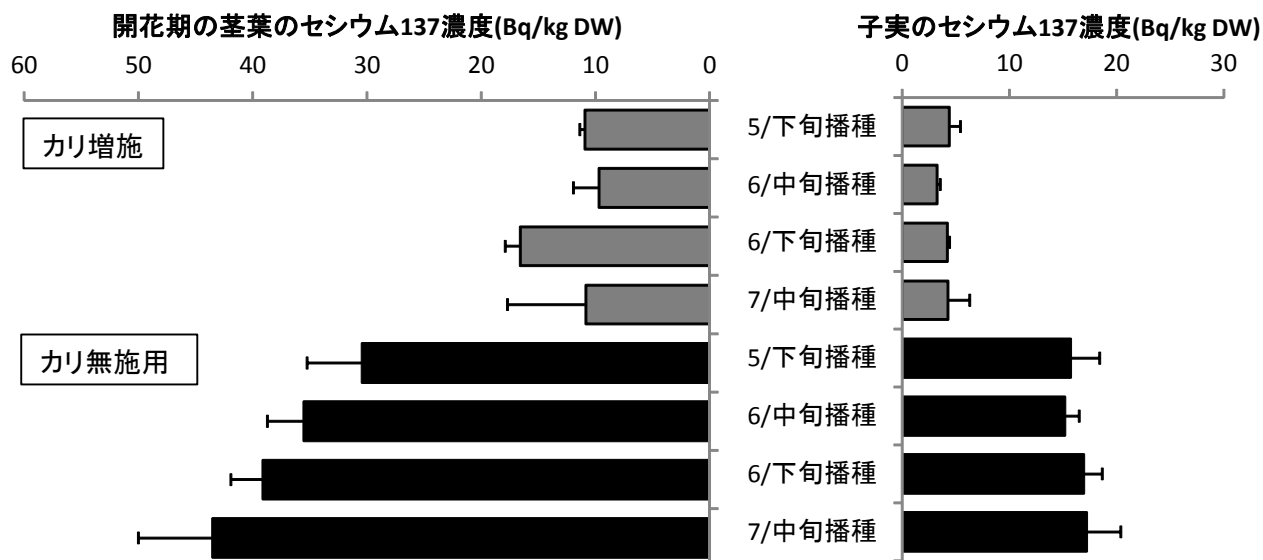


図1 ダイズの播種時期と茎葉および子実の放射性セシウム濃度

注1 土壌中の交換性カリ含量:カリ増施17.0~20.1mg/100g、カリ無施用7.9~9.5mg/100g)

注2 同一英文字を付した平均値間にはTukey-kramerの多重比較検定(P<0.05)による有意差がない

Ⅲ その他

1 執筆者

平山孝

2 実施期間

平成27年度

3 主な参考文献・資料

なし